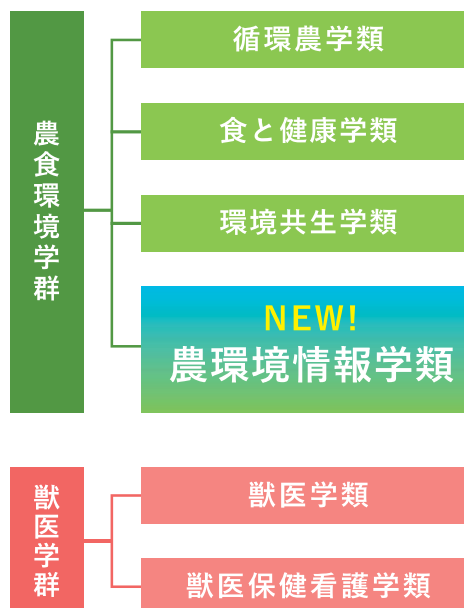


農食環境学群 農環境情報学類

入学定員：80名／学位：学士（農学）

北海道の一次産業を支えてきた 酪農学園大学

「北海道ブランド」として、質量ともに日本の食を支えている北海道。酪農学園大学では、約90年前から資源を循環させて自然環境への負荷を考えた「循環農法」を取り入れ、北海道の農業の発展に貢献してきました。また、現在では広大なキャンパスに加え、フィールドワークの舞台は海外まで広がり、豊富な実習・実験・演習によって知識と実学を両立しながら実践的な学びを展開しています。



● 取得可能な資格

中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（公民、農業）
※教員免許状については、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる可能性があります。
食の6次産業化プロデューサー（レベル1・2・3）

● 想定される就職先

情報サービス業（農業関連）、総合コンサルタント（測量、調査、環境保全事業、ICT事業など）、JA（営農指導、信用事業、経済事業）、農業生産法人（農業経営など）、卸売業・小売業（農業・農産物関連）、農業関連産業（ドローンやICT活用などによる農業支援）、国家公務員、地方公務員、中学・高等学校教諭（社会、農業、公民）、大学院進学

● 学費（諸経費含む）

初年次：1,559,000円（入学金含む）、2～3年次：1,354,000円、4年次：1,371,000円

OPEN CAMPUS 2025

7/26（土）・27（日）・9/27（土） — 事前申込制 —
10:00-15:30

学びのこと、キャンパスライフのこと、自分で見て、聞いて、体験してみよう！

プログラム

入試制度説明会／RGUツアー／学生企画イベント／学類イベント／個別相談コーナー／学生相談コーナー／無料学食体験／スタンプラリー



学類イベント

講義や体験、見学を通して学類の学びを体感することができます。



RGUカフェ

学生とお話ができる休憩コーナーです！パネル展示もあるのでぜひご覧ください。



生きるを学ぶ。学びが生きる。

酪農学園大学

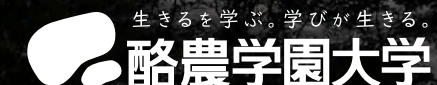
お問い合わせ：入試広報センター
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地
TEL: ☎0120-771-663 <https://www.rakuno.ac.jp/>

※2025年6月現在

情報のチカラで 地域の未来をつくる！

農食環境学群
農環境情報学類
2026年4月開設予定

※設置届出中の内容であり、変更が生じる場合があります。

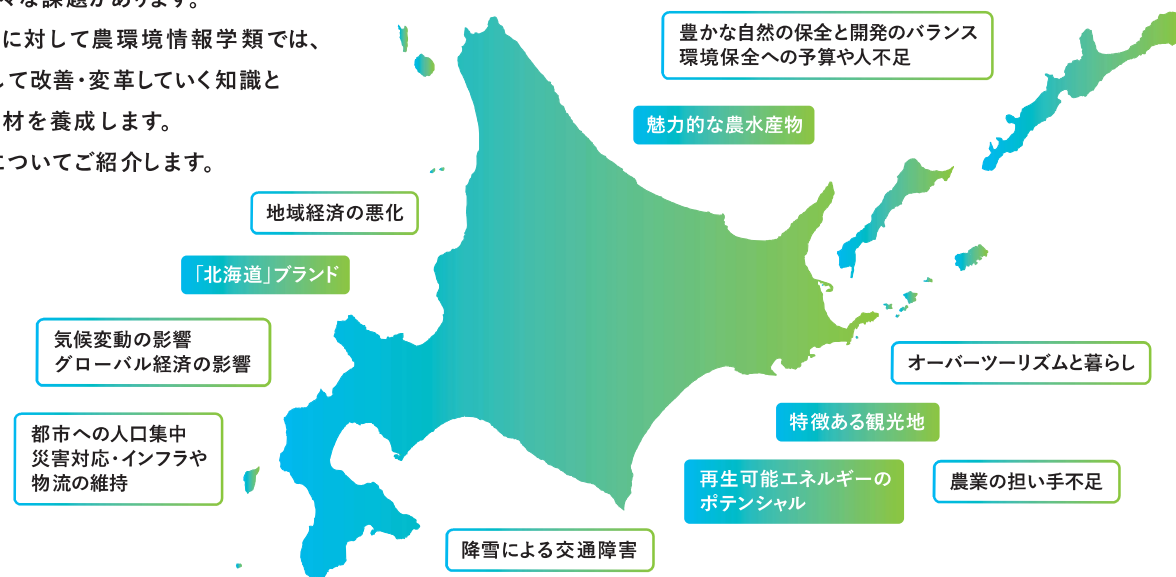


生きるを学ぶ。学びが生きる。

酪農学園大学

地域を知り、地域を学びのフィールドに。

豊かな自然環境、広大な農地があり、多様な地域からなる北海道。
 しかし現在、気候変動の影響、地域経済の悪化、農業等の担い手不足、
 自然開発等、様々な課題があります。
 そのような課題に対して農環境情報学類では、
 「情報」を活用して改善・変革していく知識と
 技術を持った人材を養成します。
 本学類の学びについてご紹介します。



学びテーマ 01 北海道が持つ魅力や資源を活用する

北海道には、森林や湿原など豊かな生態系が広がっています。また、広大な土地を活かして農業・酪農業も営まれています。これらによる北海道の自然景観、農地景観は、北海道らしさとなり、人々を魅了しています。そして、その恵みである新鮮な農水産物は「北海道ブランド」となり、地域の産業を支えています。近年は、風力や地熱等、再生可能エネルギーのポテンシャルにも注目が集まっています。北海道がもつ魅力や資源を理解するための知識や技術を学び、その活用について考える力を養います。



これについて学ぶなら

「リモートセンシング基礎演習」

衛星画像解析のソフトウェアを用いて、リモートセンシング技術の基礎から応用までを学びます。また、この技術が企業や行政における意思決定に与える重要性を理解することで、リモートセンシングに関する専門知識を深め、プロフェッショナルとして必要な基盤を固めます。

「再生可能エネルギー入門」

風力、太陽光、水力、バイオマスなどの再生可能エネルギー利用に関する基礎技術や、その応用の可能性などを学びます。特にバイオガス発電に特化し、現場見学も行いながら、日本での利用・運用について最新の研究内容などの理解を深めます。

学びテーマ 02 北海道が抱える課題に向き合う

農業・酪農業が盛んな一方で、高齢化や人口の都市への流出による担い手不足、異常気象等が、農業経営に不安定さをもたらしています。また、森林域や湿原周辺での太陽光パネルの設置等の開発行為によって影響を受けています。エゾシカ等の都市域への出没や野生動物による農作物の被害も深刻な問題です。北海道の自然や地域を持続可能なものとするための様々な課題に向き合いながら、情報の力をどのように、その課題解決につなげていくかを学びます。



これについて学ぶなら

「地域計画論」

地域計画の歴史、理論、具体的な事例を理解しながら、計画策定に向けた調査方法、統計資料の使用法、調査結果の提示方法などを学びます。また、地域計画の策定、推進、見直しに必要な知識・手法を身につけながら、コミュニケーション能力と地域計画に関わる包括的なスキルの修得をめざします。

「社会調査実習」

まずは事前学習で調査研究手法の基礎知識を修得し、フィールドワークにおける調査計画を立てることを学びます。そして農業や農村の現状を観察・体感しつつ、データ収集、取りまとめ、レポートといった一連の調査活動を通じて、現場理解を深めながら調査研究の実践的スキル習得をめざします。

「情報の力」で地域の未来をつくる。

本学類では、情報の活用（応用情報学分野）に焦点をあて、知識、技術などを習得していきます。情報の収集から活用まで段階的に学びを展開し、AIなども用いて、農業・酪農業における効果的な生産管理、省力化、環境負荷低減などを進めます。環境管理においても、情報を活用し、自然の価値や課題の見える化、対策の検討の支援などを進めます。

情報学

情報を活用している様々な学問分野を、理解・活用・発展させるために必要な共通の知識を獲得するための、基礎的な学問

情報工学分野

革新的な技術の創出を目指すコンピュータ技術に関連する分野（≒情報科学分野）

応用情報学分野 （農環境情報学類で学ぶ範囲）

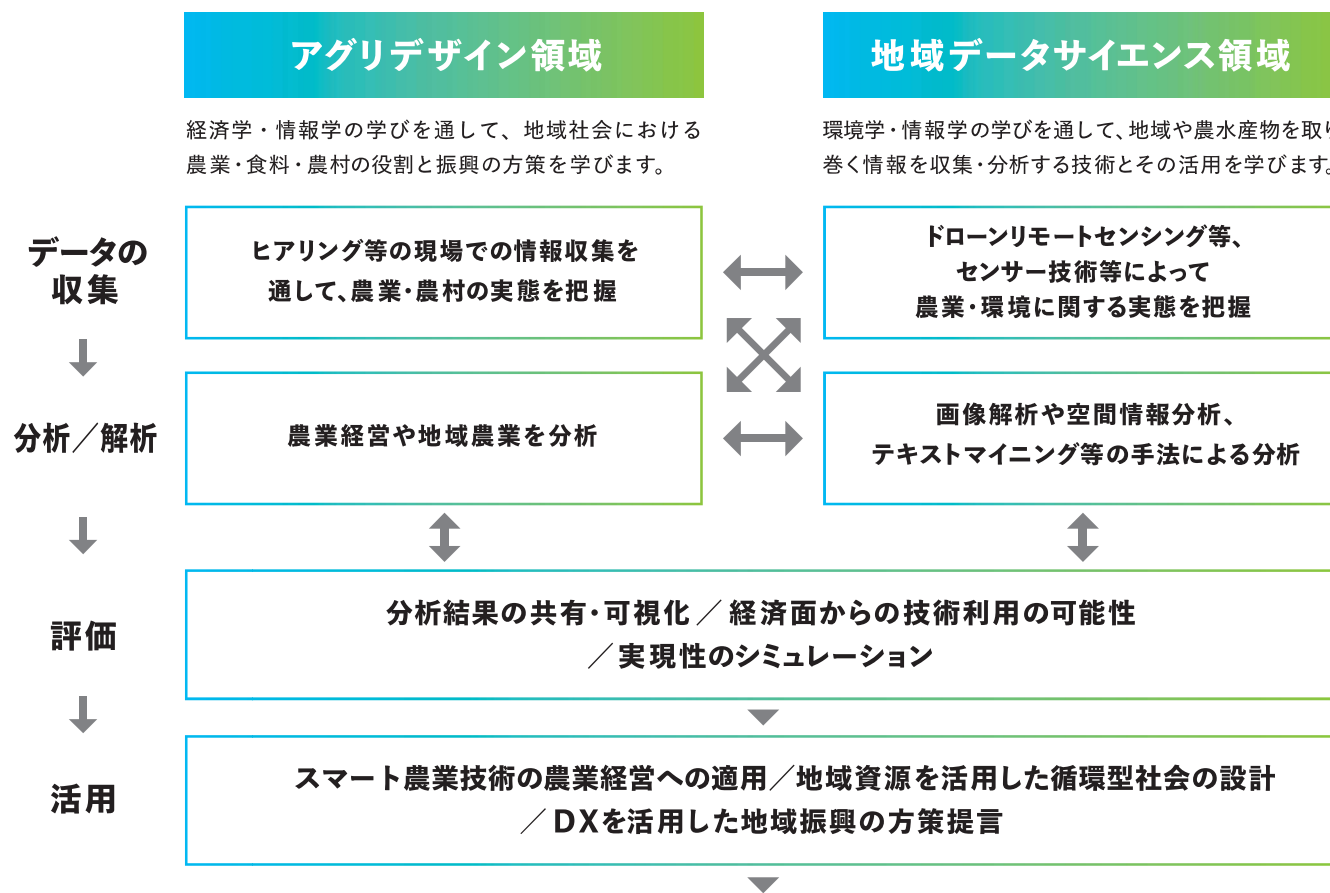
テクノロジーの産業への活用

- 一次産業（農業・漁業）
- 製造業、卸・小売業

情報技術の開発支援

- スマート農業技術

新学類では2つの専門領域で情報の収集から活用まで段階的にアプローチします。



より良い地域の未来づくり